

# 総合型選抜（A日程・B日程・C日程）

■募集人員 A日程・B日程・C日程 計20名

## ■出願資格

下記の1～3のいずれかに該当し、かつ4を満たしている者

1. 高等学校または中等教育学校を卒業した者及び2027年3月卒業見込みの者
2. 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び2027年3月修了見込みの者
3. 学校教育法施行規則第150条及び第154条の規定により大学の入学資格を有する者または2027年3月31日までにこれに該当する見込みの者
4. 合格した場合に本学への入学を確約できる者（専願）

※外国籍の方で2027年3月31日までに日本語能力検定N2相当（授業時間600時間以上）の日本語能力を有していることを証する資料を提出できる方は、総合型選抜での出願が可能です。なお、外国籍の方で出願をご検討の方は、出願開始日の1か月前までに入試課へご相談ください。

## ■選抜方法

小論文（100点）、面接（100点）の結果及び「調査書」「志望理由書」を総合的に審査し、計200点満点で可否を判定します。「調査書」については、本学科のアドミッション・ポリシーに基づいて評価します。

※小論文はP6～P7記載の各学科の事前課題（テーマ1,2）のうち、どちらかが出題されますので、両テーマについて事前に十分学習してください。また、その内容は面接で質問されることもあります。なお、事前に学習した記入物等は試験時間中の持ち込みはできません（事前に学習した記入物等は提出不要）。

## ■出願方法・出願書類について

P55～P63をご参照ください。

## ■入試日程

| 入試  | 出 願 期 間                      | 試 験 日          | 合 格 発 表        | 入学手続期限         |
|-----|------------------------------|----------------|----------------|----------------|
| A日程 | 2026年9月7日(月)<br>～9月17日(木)    | 2026年10月10日(土) | 2026年11月5日(木)  | 2026年11月19日(木) |
| B日程 | 2026年11月12日(木)<br>～11月26日(木) | 2026年12月12日(土) | 2026年12月22日(火) | 2027年1月22日(金)  |
| C日程 | 2027年1月28日(木)<br>～2月8日(月)    | 2027年2月18日(木)  | 2027年3月3日(水)   | 2027年3月10日(水)  |

## ■試験場・実施時間

| 試 験 場  | 実 施 時 間                                                 |
|--------|---------------------------------------------------------|
| 八戸学院大学 | 1. 受 付 9:15～9:45<br>2. 小論文 10:00～11:00<br>3. 面 接 11:15～ |

## ■特記事項

総合型選抜合格者には入学前課題があります。

## 総合型選抜（資格特待生選抜）

### ■募集人員 A日程・B日程・C日程 若干名

◆特典 出願書類一式提出時までに取得した資格が、《表1》の条件を満たしている場合、以下のような学納金免除の特典を受けることができます。

資格特待生区分1 年額 670,000円

資格特待生区分2 年額 485,000円

資格特待生区分3 年額 300,000円

《表1》

| 対象の資格                                                                                                                                                                          | 区 分                         | 特待生条件                                                                                                                                                          |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 基本情報技術者<br>a<br>・実用英語技能検定<br>※その他英語の検定試験(注1)<br>・日本漢字能力検定<br>・実用数学技能検定<br>・日商簿記検定                                                                                              | 資格特待生区分1<br>《授業料免除》         | 左記資格の中から下記いずれかの組合せで資格所持<br>・aから準1級以上を1つ<br>・aから2級を2つ<br>・aから2級を1つと別資格aから準2級以上を2つ<br>・aから準2級以上を2つとbから1つ<br>・aから準2級以上を1つとbから2つ<br>・bから3つ<br>・基本情報技術者とaから準2級以上を1つ |
| b<br>・全経簿記能力検定1級<br>・ITパスポート<br>・危険物取扱者甲種<br>・全商簿記実務検定1級<br>・全商情報処理検定(ビジネス情報部門)1級<br>・全商情報処理検定(プログラミング部門)1級<br>・全工協会計算技術検定1級<br>・全工協会情報技術検定1級<br>・全工協会パソコン利用技術検定1級             | 資格特待生区分2<br>《授業料半額＋教育費半額免除》 | 左記資格の中から下記いずれかの組合せで資格所持<br>・aから2級を1つと別資格aから準2級以上を1つ<br>・aから準2級以上を3つ<br>・aから準2級以上を1つとbから1つ<br>・bから2つ<br>・cから2つ<br>・基本情報技術者                                      |
| c<br>・全商財務諸表分析検定試験<br>・全商財務会計検定試験<br>・全商管理会計検定試験                                                                                                                               | 資格特待生区分3<br>《教育費免除》         | 左記資格の中から下記いずれかの組合せで資格所持<br>・aから2級を1つ<br>・aから準2級以上を2つ<br>・bから1つ                                                                                                 |
| (注1) その他英語の検定試験（GTEC等）の各スコアの該当区分については入試課までお問い合わせください。また、英語資格を複数所持していた場合、上位資格のみ対象となります。<br>※原則として、該当する資格は出願時までに取得したものが対象となります。なお、出願後（出願書類一式提出後）に取得した資格により、資格特待生区分を変更することはできません。 |                             |                                                                                                                                                                |

### ■出願資格

総合型選抜と同様です。P3をご参照ください。

### ■選抜方法

総合型選抜（P3）の選抜方法の内容（200点）に加え、「志望理由書」「資格記入書」に基づいた面接（100点）を計300点満点として実施し、意欲・能力・諸活動などを総合的に審査し可否を判定します。

### ■出願方法・出願書類について

P55～P63をご参照ください。

## ■入試日程

| 入試  | 出願期間                         | 試験日            | 合格発表           | 入学手続期限         |
|-----|------------------------------|----------------|----------------|----------------|
| A日程 | 2026年9月7日(月)<br>～9月17日(木)    | 2026年10月10日(土) | 2026年11月5日(木)  | 2026年11月19日(木) |
| B日程 | 2026年11月12日(木)<br>～11月26日(木) | 2026年12月12日(土) | 2026年12月22日(火) | 2027年1月22日(金)  |
| C日程 | 2027年1月28日(木)<br>～2月8日(月)    | 2027年2月18日(木)  | 2027年3月3日(水)   | 2027年3月10日(水)  |

## ■試験場・実施時間

| 試験場    | 実施時間                                                                                      |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 八戸学院大学 | 1. 受付 9:15～9:45<br>2. 小論文 10:00～11:00<br>3. 面接 11:15～<br>※総合型選抜面接終了後、資格特待生<br>選抜面接を実施します。 |

## ■特記事項

- ・総合型選抜（資格特待生選抜）合格者には入学前課題があります。
- ・原則として、該当する資格は出願時までに取得したものが対象となります。なお、出願後（出願書類一式提出後）に取得した資格により、資格特待生区分を変更することはできません。
- ・総合型選抜資格特待生は在学期間継続を原則とするが、特待生として相応しくないと認められる場合は停止することがあります。
- ・総合型選抜資格特待生として不合格となった場合は、総合型選抜志願者として可否を判定します。

## 総合型選抜（資格特待生選抜含む）事前課題

事前課題（テーマ1,2）のうち、どちらかが出題されますので、両テーマについて事前に十分学習してください。また、その内容は面接で質問されることもあります。なお、事前に学習した記入物等は試験時間中の持ち込みはできません（事前に学習した記入物等は提出不要）。

### ◆テーマ1

次の文章を読み、以下の2つの問いに答えなさい。

JR北海道が赤字の8路線のあり方について、自治体と本格的な協議に入る。存続させるなら線路などを自治体の保有・管理に移す上下分離方式をとり、それも難しいならバスなどへの転換や廃線が選択肢になる。

人口減少時代に赤字が積み重なるローカル鉄道をどこまで維持するか。公共交通は地域経営の重要な柱でありながら、自治体はこの問題を一義的に鉄道会社に委ねてきた。全国的な鉄道ネットワークのあり方を考える国とともに、①都道府県や市町村は赤字ローカル線問題を自らの問題として正面から向き合うときだろう。

協議する8路線はJR北海道単独では維持が難しい区間で、全路線の4割、900キロメートル超に上る。2016年にも上下分離を打診したが、協議は進まなかった。今回はJR北海道を支援する国が26年度中の結論を求めており、事実上の最後通告といえる。

JR北海道が経営改善を尽くすのは当然だが、ボールは北海道や沿線市町村に投げられた形だ。鈴木直道知事は「地域が主体となって路線を維持していくのは課題が多く、容易ではない」という。その課題を一つ一つ解きほぐし、沿線市町村と合意形成を進めていくのが知事の役割だろう。

8路線は性格が異なる。有事の鉄道輸送や食料安全保障を考慮すべき路線なら国が関与を強めてよい。地域間の広域交通は北海道、地域内の生活路線は市町村が主体となって存廃を判断すべきだ。

本来なら10年前に打診されたときから始めるべきだったが、今からでも遅くはない。路線ごとに沿線住民の声も踏まえて納得のいく結論をまとめてほしい。

上下分離した福島県会津地方のJR只見線は、福島県がJR東日本との交渉の先頭に立って負担に応じ、沿線市町村だけでなく、沿線ではない会津の市町村も負担を受け入れる形を作りあげた。住民を含め、地元の存続への熱意がそこまであったということだ。

地方ローカル線は各地で同じ問題を抱える。滋賀県のように鉄道を維持するため交通税の創設を検討しているところもあり、地域の熱意が存続を左右しよう。

②税金で負担してでも残すのか、道路整備を縮小して鉄道支援に回すのか、それとも鉄道をあきらめるか。自治体は住民を交えて合意をまとめる責務がある。国も支援を手厚くして支えてほしい。（以上、『日本経済新聞電子版』2026年4月24日付社説より引用。）

### 参考文献

『日本経済新聞電子版』2026年4月24日付社説「赤字ローカル線は国と自治体の問題だ」、  
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQODK248OY0U6A420C2000000/>,  
 (2026年6月1日付)。

問1. 文章中の下線部①に関連し、赤字ローカル線の維持・存廃について沿線住民を交えた合意形成を進める上で、都道府県や市町村は、どのような課題に直面すると考えられるか。また、その課題を克服するためにいかなる方策が必要か、あなた自身の考えも交え、300字から400字以内で答えなさい。

問2. 下線部②に関連し、赤字ローカル鉄道の問題も含め、今後、人口減少が進む我が国の地域社会において、住民の移動手段を確保し、地域の活力を維持するためには、どのような交通政策を優先的に推進すべきであると考えるか。その理由とともに、あなた自身の考えも交え、300字から400字以内で答えなさい。

## ◆テーマ2

「若者の視点で考える八戸市の新たな観光振興」

八戸市では、『ハマル、ハチノヘ。観光振興プラン（2025～2029）』に基づき、地域の魅力を生かした観光まちづくりを進めている。

あなたが高校生として観光まちづくりプロジェクトに参加すると仮定し、参考資料内「（9）八戸の観光『強み』・『弱み』の分析」を参考に、八戸市の観光における課題を一つ挙げなさい。その上で、その課題を解決するための新しい観光の魅力づくりについて、若者の視点から提案しなさい。

論述にあたっては、他地域の観光振興事例を一つ取り上げ、その事例が成功した理由を説明するとともに、その事例を八戸市でどのように活用できるかについて述べなさい。また、地域住民がどのように関わるべきか、提案によってどのような効果が期待できるかについても論じなさい。

【字数】600字以上800字以内

## 【参考資料】

『ハマル、ハチノヘ。観光振興プラン（2025～2029）』  
2026年6月24日アクセス



※参考資料はQRコードから確認できます。